様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５６０７８４

研究課題名（和文）アーツ・アンド・クラフツ運動と日本－武田五一の活動を通じた影響関係を中心として

研究課題名（英文）Arts and crafts movement and Japan; Interrelation between European architecture and Japanese architect G. Takeda

研究代表者
足立　裕司（Adachi, Hiroshi）

神戸大学・工学（系）研究科（研究院）・名誉教授

研究者番号：６０１１６１８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,200,000円

研究成果の概要（和文）： 本研究は日本におけるアーツ・アンド・クラフツ運動（A&C運動と略）の受容を武田五一という建築家を通じて考察することであった。イギリスでの幅広い運動の全貌を把握することにより、並行して検討した武田の活動への影響を指摘し、解明した。従来、日本でのA&C運動の影響はその理念の受容を中心に検討しているが、実際の作品や様々な活動、理論的展開を比較することにより、日本の工芸、住宅・室内意匠等への影響が明らかとなった。さらにウィーン分離派を始めとする新しい運動もその源泉をA&C運動に求める史観も確認され、J.コンドルに遡る広範なゴシック復興運動からの影響を含めて今後検討する必要があることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This research has a purpose to make clear the interrelation between arts and crafts movement and Japanese architects. For instance, G. Takeda who was a one of the important introducer of European new movement has come across and understood arts and crafts movement in England. Researching widely expanded activities of A&C movement again in details, I could make clear the influence of that movement on Japanese architects. One of the influences is latent but important. One is the influence that was made for them to understand the importance of task of house design. Another one is Japanese architects has understood the relation between A&C movement and new movement of Wiener Secession. But these interaction is not so clear that historian can get it easy, because these design have not directory connection in formal outlook.
This research could refer to the interrelation between the movement and Japanese architects who have been learned architectural theory from J. Conder in Meiji period.

研究分野： 近代建築史

キーワード： ーツ・アンド・クラフツ運動　武田五一　世紀転換期　中世主義　ウィーン分離派　日本近代住宅史

１．研究開始当初の背景

申請者は、神戸大学が所蔵する武田五一の膨大な旧蔵品を手がかりとして、これまで様々な観点から研究を行ってきた。その成果の一端は、論文や関連する展覧会を捉えて発表してきた。その研究方法としては、他の建築家や欧米における当時の建築思潮と比較することによって、単に日本国内の近代建築史としてではなく、同時代の比較建築文化論としての視点を保持しながら検討を行うことであった。その結果として、欧米から日本への一方的な影響関係ではなく、欧米における日本建築に関する関心や影響という双方向的な視点も提示することができたと考える。

しかし、欧米の新しい建築思潮に注目するあまり、彼の活動の出発点である日本文化に対する視座と、その後の教育活動としての図案という分野での活動、さらに歴史遺産の保存や修復といった活動について、それぞれ個別の活動としてやや分断的に扱ってきたと思われる。その結果として、彼の活動の多様性を強調することにはなっても、彼の活動の全体像を失いがちになるというジレンマが生じていた。それは武田五一の作品についても、時に新しさと古さの同居する彼の傾向をうまく解釈しきれないという、同根のジレンマを抱えてきたと思われる。

今回、有力な試みとして考究してきたアーツ・アンド・クラフツ運動との関連性については、最初の留学時に武田五一がイギリスで在籍した美術学校がアーツ・アンド・クラフツ運動に関係する学校であったことまでは確認できていたが、形式面での確認にとどまり、教育内容については追求できていなかった。この美術学校の教育内容や旧蔵書、資料等を再考察することによって大きく研究が進捗した。

また、アール・ヌーヴォーやウィーン・ゼツェッションなどについて書かれた彼の論考に囚われたこともあって、イギリスからヨーロッパ、アメリカの建築界にまで及んだアーツ・アンド・クラフツ運動の思想と造形の広がりを看過してきたと思われる。しかし、イギリス留学後の武田五一の関心とその活動を考慮するなら、イギリスでの思潮まで回帰しうる諸国の動向への関心が透けて見えてきたように思われる。

具体的には、自国の住文化への拘りとしての伝統回帰、自国の歴史様式のアイデンティティを巡る論争、歴史的建造物の保護といったアーツ・アンド・クラフツ運動の派生としてなされた諸活動や、イギリスでのゴシック様式リヴァイバル、住宅復興運動、ウィーン・ドイツにおける様々な工房（ヴェルクシュテッテ）の設立や F.L.ライトに至る影響等など、アーツ・アンド・クラフツ運動の二次的な広がりを含めて再検証し、武田五一の幅広い活動との関連と、彼の活動を根幹で支えている地域主義的な建築観との関連を解明することを目指した。

本研究では、これまで行ってきた武田五一の再考察と不十分であったイギリスの同時代の動向を精査することによって、以上の作業を通じて日本の近代建築史上では不十分であったアーツ・アンド・クラフツ運動の広範な影響とその全体としての歴史的な意義を解明することを目的とする。

２．研究の目的

研究目的は下記の各項目に分類される。

1)　明治 20 年代から起こっていた日本の建築的伝統についての関心が、武田五一のアーツ・アンド・クラフツ運動との邂逅とどのように影響しあうことになるのか、両者の地域主義的傾向を再検証する。

2)　建築だけでなく住宅という課題を中心に据えようとした武田五一の志向は、アーツ・アンド・クラフツ運動の理念ときわめてよく合致しており、彼の提示した日本の居住環境の先導的かつ総合的な提案について再評価を行う。

3)　建築と図案という当時の職能について再考察し、家具・什器・織物のデザインから記念碑まで及ぶ活動の意義についてアーツ・アンド・クラフツ運動との比較を通じて考察する。

4)　文化財建造物の保存・修復から歴史的建造物の再利用まで、他に例をみない武田五一の活動について、イギリスでの古建築物保護協会の活動との関係性の有無について再考察を行う。

5)　新旧が併存する彼の意匠の特殊性について再考する。特に国会議事堂の建設に果たした彼の役割について検討するとともに、海外議事堂視察（第２回渡航）の際に得たと思われる各国の議事堂建設の思潮的な背景となるナショナリズムと、その意匠的基盤としての地域主義な建築観について比較検討する。

6)　上記の目的の総合として、広く世界に影響を及ぼしたアーツ・アンド・クラフツ運動の活動について、それら二次的な活動の日本への影響についても再考証を行う。白樺派、民芸運動等の建築以外の領域にも範囲を広げ、日本の近代建築史の深化を図る。

３．研究の方法

アーツ・アンド・クラフツ運動の広範であるが故に多分野に及ぶ影響は確定しにくく、そのために従来の研究では建築、住宅、デザインといった個別研究として取り上げられてきた。本研究では、この時代を共有し、幅広い活動を展開した希有な日本人建築家としての武田五一の活動から、逆にその全体性を捉えようと試みた。個がもつ全体性を通じて、この時代に西洋世界が取り組もうとしていた問題と、日本が取り組まなければならなかった課題を分離した並行現象ではなく、相互関係として捉えることを試みた。

その端緒として、武田五一とアーツ・アン

ド・クラフツ運動との接点となった第１回渡航時において彼が在籍した Camden School of Arts and Science やアーツ・アンド・クラフツ運動の影響下にあった工芸学校の教育理念や教育方法を現地調査から確定し、武田五一の多分野に及ぶ作品系列上に現れた類似点と表層的な並行現象を裏付ける思想的関連についての考察の手がかりとした。

４．研究成果

1)　明治 20 年代から起こっていた日本の建築的伝統についての関心が、武田五一の第一回洋航時に行ったアーツ・アンド・クラフツ運動に関連する人物との交流、彼が見聞した場所、彼が関心を持って取得した書籍等の資料を通じて、彼がアーツ・アンド・クラフツ運動を熟知し、すでに志向として有していた地域主義的傾向がより深化されたことが明らかとなった。

2)　建築だけでなく住宅という課題を中心に据えようとした武田五一の志向が彼の著述を通じてアーツ・アンド・クラフツ運動理念ときわめてよく合致しており、彼の生涯を通じて住宅の革新をライフワークとしたことの出発点が確認された。

3)　日本での建築と図案という職能の相違はアーツ・アンド・クラフツ運動においては解消され、総合的な活動として捉えられているが、武田五一の活動でも同様の傾向がみられた。

4)　文化財建造物の保存・修復から歴史的建造物の再利用まで、他に例をみない武田五一の活動について、イギリスでの古建築物保護協会の活動との関係性の有無について再考察を行ってきたが、やや留保するべき点とモリスとの理念と一致するところもあり、今後の研究の課題としたい。
そのなかで特筆されるのは、第１回の渡航時から見いだすことができる伝統的民家への関心である。英国での民家は、日本ではチューダー・ゴシック様式の元となるが、単なる様式的関心ではなく、日本では大正期にまで待つ必要がある伝統、民衆、土着といったものへの関心をこの時期に既に有していたことが明らかとなった。

5)　武田五一は大蔵省臨時建築部の一員として諸国の国会議事堂について調査しているが、訪れた国会議事堂の内外を調査した結果、さまざまな調査対象から必要なアイデアを得ていることが分かってきた。また、日本的伝統と西洋様式の折衷は、その理論的根拠として W.クレインの著書から得た進化論的な史観が背景にあることを解明することができたと思われる。日本建築史上重要な課題だけに、今後、より詳しい調査研究を続けていく予定である。

6)　上記の目的の総合として、広く世界に影響を及ぼしたアーツ・アンド・クラフツ運動の活動について、それら二次的な活動として住宅や土着の民家への関心が高まってくる。日本へのアーツ・アンド・クラフツ運動の影響として白樺派、民芸運動等の建築以外の領域にも深い関係があることが解明できたと考える。しかし、より広範な考察が必要であることから、今後さらなる旧蔵資料の精査を行っていく所存である。

7)　今回の比較研究を行うに当たって、神戸大学所蔵の武田五一旧蔵資料を全面的に精査しなおした。その過程で資料の再整理を行い、重要資料については全てデジタル化を行った。今後、神戸大学付属図書館のデジタル・アーカイブとして公開する予定である。

以上の研究成果に加えて、アーツ・アンド・クラフツ運動の源泉でもあるイギリスでのゴシック・リヴァイバル運動とその理論を武田五一が理解していることと、彼の建築理念の基礎をなしていることが判明した。加えて、彼をイギリスのアーツ・アンド・クラフツ運動に連なる W.クレイン等の人物と引き合わせた人物が J.コンドルではないかという可能性が資料等から判明してきた。以上のことから、日本におけるアーツ・アンド・クラフツ運動の影響はさらに過去に遡って、コンドルの教育活動をも含めて検討する必要があることが明らかとなってきた。重要な発見であるだけに今後の課題としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2 件）

①足立 裕司、制作における言語と歴史－モダニズムの成立前後の事例とともに、日本建築学会大会協議会、招待論文、2014 年、11-21
②足立 裕司、二つの地震の間で－東日本大震災と歴史的環境保存、都市問題、第 103 巻、第 09 号、招待論文、巻なし、2012 年、1-10

〔学会発表〕（計 5　件）

①足立　裕司、日本の近代建築史におけるアーツ・アンド・クラフツ運動の影響について－武田五一研究（８）、日本建築学会大会発表会、2015.09.04、東海大学
②足立　裕司、武田五一の建築観とアーツ・アンド・クラフツ運動（その 2）－武田五一研究（7）、日本建築学会近畿支部、2015.06.13、近畿支部研究報告集
③足立　裕司、災害時における文化財とまちづくり、シンポジウム・震災と文化財保護、2015.01.24、神戸大学
④足立　裕司、災害時における文化財とまちづくり、阪神淡路大震災 20 年、2015.03.31、阪神淡路大震災 20 年事業誌 2-17 所収
⑤足立　裕司、武田五一の建築観とアーツ・アンド・クラフツ運動－武田五一研究 (6)、日本建築学会近畿支部研究発表会、2014.06.21、近畿支部研究報告集

〔図書〕（計 6　件）

①足立 裕司、デフォレスト館建造物追加調査報告書、東北学院大学、2015 年、ハーバード大学所蔵デフォレスト関連資料について、デフォレスト館の建設とその後の変遷について、資料編担当
②足立 裕司、デフォレスト館建造物調査報告書、東北学院大学、2014 年、建築概要および平面計画についての考察を担当
③足立 裕司、奥村　弘、歴史文化を大災害から守る、東京大学出版会、2014 年、（403-422）
④足立 裕司、よみがえる建築遺産、中国地方総合研究センター、2013 年、（6-40）
⑤足立 裕司、田中　輝彦、兵庫を築く、神戸新聞出版、2013 年、（86-222）
⑥足立 裕司、伊藤　誠一郎、登録有形文化財旧武藤家別邸洋館移築修理工事報告書、兵庫県、2013 年、監修および建築概要等分担

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0　件）

該当なし

○取得状況（計 0　件）

該当なし

〔その他〕
ホームページ等

該当なし

６．研究組織
(1)研究代表者
足立　裕司（ADACHI,Hiroshi）
神戸大学・名誉教授
研究者番号：60116184

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし